



# KICK OFF 通信

## 初めての10代投票、その結果は...



### ◆投票率から見えるもの

この度、約70年ぶりの参政権拡大によって「18歳選挙権」が実現しました。参議院選挙の結果、あくまで抽出ですが、全国平均において18歳投票率は51%、そして19歳は40%程度です。

他方、我が神奈川県においては同65%、および同50%と、全国平均をはるかに上回る結果となったのは驚きでした。県下の高校生に副教材を配布したりして、主権者教育や啓発に力点を置いてきた結果でしょうか・・・。

もっとも、他国の事例から見て、20歳以上では年齢が低いほど投票率が低いものの、逆に10歳代は年齢が低いほど投票率は高くなる傾向になるとのことです。こうした傾向が日本でも現れたのでしょうか。

### ◆若年層の投票する意義を見出す

近年、欧州では多くの先進国が選挙権年齢の引き下げを実施し

てきました。オーストリアなどは既に16歳からとなっているのも、世代間格差を是正し、若者の声を政策に反映させる必要性を認識しているからだと思われます。

翻って我が国では、かつて学生運動に見られたようなパワーはなく、自分の力では政治は変えられないと思っている若年層が多いと言われております。これは若年層に限ったことではないでしょうが、投票に行かない理由として、「誰に投票すべきか分からない」とか「投票したい候補者がいない」とか、「面倒くさい」といった消極的な意見が聞かれます。

多くの高校生の中にも、「よく分からないのに投票に行ってはならないのでは」というような、真面目過ぎる意見もあったくらいです。したがって政治への参画意欲を高めるためには、自分たち自身の行動により、社会が動くという成功体験が求められることになりましょう。

そのためには行政サイドが計画を立案する際に、子どもや若者の意見を多く採り入れる手法を勘案しなければなりません。実際

にスウェーデンでは、子どもたちの話合いに基づいて、小学校の遊具に対する予算をつけ、購入している試みも見られます。

### ◆政治的な教育の必要性

勿論、政治・政策を提供する側のPRや、見せ方の問題もありますが、選挙や投票に関する基礎的な知識を習得してもらえる教育は不可欠だと思います。また、話題に上がっている政治的テーマについて、議論やディベートによって理解を深め合う必要性もあります。様々な分野につき分かりにくいからこそ、自らの思考力を高める努力が求められるのではないでしょうか。

要は、18歳選挙権の盛り上がりを一過性に終わらせるのではなく、いかに持続させるかでしょう。その流れを作るためには、政治教育を充実させて、イベントや社会的仕組みを通じて、政治に参加できる環境を広げていくしか道はありません。

### 【プロフィール】

# 水戸まさし

昭和37年

7月28日生まれ

平成 4年

神奈川県立湘南高校・慶應義塾大学卒業後、サラリーマン生活を経て代議士秘書に・・・

平成 7年

「税は政治なり」との思いで始めた税理士試験に合格

平成19年

県議会議員初当選～平成19年まで連続3期

平成26年

第21回 参議院議員選挙 当選

平成28年

予算委員会・ODA委員会などの理事を歴任

第47回 衆議院議員選挙 当選

維新の党・税制調査会事務局長

民進党結成に参画

国土交通委員会&沖縄・北方領土特別委員会の両理事

衆議院議員 / 神奈川県5区(戸塚・瀬谷・泉)

